

就学前教育

就学前教育と小学校教育との円滑な接続

就学前教育と小学校教育との円滑な接続のために、各園においては乳幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を手掛かりに子どもの育ちや学び、保育者の指導の過程などを小学校教員と共有し、相互理解を図ることが必要です。就学前教育では子どものそれぞれの時期にふさわしい生活の中で充実した経験が保障される教育・保育を展開することが大切です。

円滑な接続に向けた連携のために

情報交換を通して互いの子どもの生活や教育方法を知りましょう。
[例]・園だより、学校だより、5歳児と1年生のクラス(学年)だよりの交換と全職員での回覧
・園内及び校内掲示
・行事、研究会の案内
・年間行事予定表、1日の流れの交換
・学校(園)評価、経営計画等の交換

互いを知らう

園や学校の子どもの生活や教育方法の相違点や共通点の理解を図り、育ちや学びをつなぎましょう。
[例]・育ちをつなぐための授業・保育参観
環境：ユニバーサルデザイン等
生活：給食の時間、清掃、当番活動、持ち物等
学び：(小)生活科等の授業参観
(幼保)5歳児の遊び、振り返りの時間等
地域との関わり：行事等における世代間交流等

参観しよう

参加しよう

研究会等に積極的に参加し、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの育ちについて感じたことや考えたことを共有し、互いの教育・保育に生かしましょう。
[例]・幼保小の研究会への相互参加

・協議での積極的な意見交換を通じた、参加者同士の学び合い

育ちや学びをつなぐための連携を通して双方の教育内容及び指導方法を理解し、接続を意識したカリキュラム改善を図る。

継続させよう

連携できる組織の構築を図り、互惠性のあるつながりを継続させましょう。
[例]・連携の組織づくり(管理職、教務主任、養護教諭、特別支援教育担当、担任等)
・接続に向けた目標やテーマの設定
・円滑な接続に向けた連携のための年間計画作成と実践、改善

保育参観を通して育ちや学びの理解を図るための話合いの例

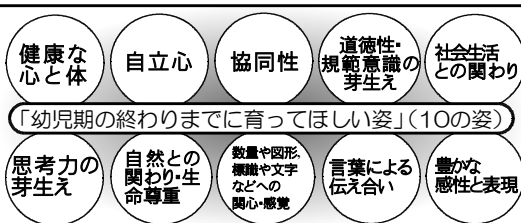


参観の手掛かり



保育者、小学校教員が5歳児クラスの保育参観をしました。参観の手掛かりとして「10の姿」に関する資料を手元に置いて育ちや学びを読み取り、協議会で話し合いました。

Point 保育者は、具体的に見られる「10の姿」を生かして、保育者の働き掛けの意図や子どもの育ちや学びについて伝えることが円滑な接続を図る上で大切であることを意識する必要があります。



協議のテーマ「集団の遊びを通して得られる育ちや学び」

〈砂場の遊びの場面から〉

数人の子どもたちが友達と砂場でゆるやかなV字型に樋をつなげて遊んでいるときに、片方の樋の端からバケツで水を流すと、水がもう一方の樋の方に上って流れ込むことを発見する。いつもと違う水の流れ方に興味をもち、空のペットボトルをロケットに見立てて手前の樋に置き、水を流して反対側の樋から飛び出させるという遊びに発展する。なかなかうまくいかないが、「もっとたくさん水がいるんじゃない」「ああ、今度は強すぎだ」「じゃあ、少しずつ流してみる」などと友達と考えを出し合い、水の量や流す勢いを変えながら、繰り返し試す。しばらく試した後、バケツ一杯に汲んだ水を、始めはゆっくりと流し出し、半分ほど流したところで、勢いをつけて一気に全部流すと、うまくいくことを発見する。ペットボトルは水の勢いに合わせて、始めはゆっくりと手前の樋から流れ出し、最後は勢いよく反対側の樋の先端から飛び出す。子どもたちは「やったあ」「大成功」と言って喜び合い、遊びが続いていく。

【出典】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領各解説

〈小学校教員の気付き〉

集中して遊んでいましたね。

子ども同士が関わり合うためには、保育者の教材研究と準備が大事なですね。

「たくさん」「少しずつ」といった量感を伴う言葉や、「もっと」「強すぎ」といった程度を表す言葉は、遊びの中で意味を理解して使えるようになるんですね。

この時期から学び合いがありますね。子ども同士の関わりや試行錯誤の様子を見守り、待つという保育者の姿勢の大切さを感じます。

一つの場面からでも「10の姿」がいくつか関連し合っているように見えてきますね。

学びの始まりは1年生ではなく幼児期からという意識改革が必要ですね。発達や学びの連続性を踏まえた授業改善が大事ですね。

〈保育者の意図・説明〉

先週から樋を使った遊びが始まりました。遊びが発展するように複数の樋、たらい、大きさの異なるバケツやペットボトルを子どもたちが使いたいときに取り出せるように準備しました。水が必要なときは、自分たちで工夫して運んでいます。

年長になるほど遊びのイメージを共有するための言葉の役割が大きくなります。子どもの会話をよく聞くようにしています。

言葉の獲得だけでなく、子どもたちは遊びの中で、役割分担をしたり共通のルールを作り出したりしていますよ。思いの違いや折り合いを付ける必要があるときは、状況を見ながら保育者が関わるようにしています。

この協議を通して、ねらいを明確にした保育の中で育みたい資質・能力を育むことを意識して保育に当たっていきたいと思いました。

園と学校で協議することにより、互いの教育方法の違いを超えて目の前の子どもの育ちと学びに対する理解につながるとともに、双方の接続を意識した5歳児の年間指導計画、小学校のスタートカリキュラムの改善に生かすことができます。